

がん検診に関する検討会	
平成 19 年 6 月 26 日	資料 4

資料 4 : C T 検査の現状について

(金子委員提出資料)

CTによる肺がん検診の現状

平成18年度、全国の781の市に対しアンケートを行い607市から回答あり。

33市、5.4%においてCTによる肺がん検診が行われていた。

平成18年度厚生労働省老人保健健康増進等事業、がん検診事業の効果向上に向けた有効な手段の開発に関する研究（主任研究者 小坂 健）報告書より

平成16年度の43施設からの報告

受診者 男性 50,937名 女性 26,093名 合計 77,030名

要精検率 9.2% (1.9-43.5) 肺がん発見数 174(10万人対 223.9)

切除肺がん数 123(70.7%) I期肺がん数 117(67.2%)

初期に比べ報告施設数は増加しているがI期肺がん率は低下傾向にある。

日本CT検診学会年次調査より CT検診 13巻2号 193-194, 2006

CT検診繰り返し受診の効果

	ALCA	長野	日立	ELCAP
初回受診	1,611	5,483	7,956	1,000
肺がん数	14	23	36	27
発見率(%)	0.87	0.42	0.44	2.7
腫瘍径 mm	19.8	15.1	17.0	13.8
IA期(%)	71	91	78	81
複数受診	7,891	8,303	5,568	1,184
肺がん数	22	37	4	7
発見率(%)	0.28	0.45	0.07	0.59
腫瘍径 mm	14.6	12.0	16.0	12.1
IA期(%)	82	86	100	71

ALCA:東京から肺がんをなくす会、

ELCAP: Early Lung Cancer Action Program

中山富雄、鈴木隆一郎. 低線量CT肺癌検診の有効性評価. 肺癌 46(7)871-876, 2006 より一部改変

同一集団に対し繰り返しCT検診を行うことで、肺がん発見率の低下とIA期率の上昇が認められる。

一方で全国的な普及により、精度管理の不十分な検診が広まっている。

対策型の肺がん検診に低線量CTを導入するにあたっては、研究的な検診であることを十分に受診者に告知し、検査後の追跡調査に関して同意の得られた受診者に限定して行うべきで、受診者に対しては要精検者はもちろん、陰性者の中から肺がんが発生した場合には直ちに把握できるシステムを構築した上で開始すべきと考える。